

小池臨時議員提出資料

(環境大臣)

平成 17 年 4 月 25 日



みんなで止めよう温暖化

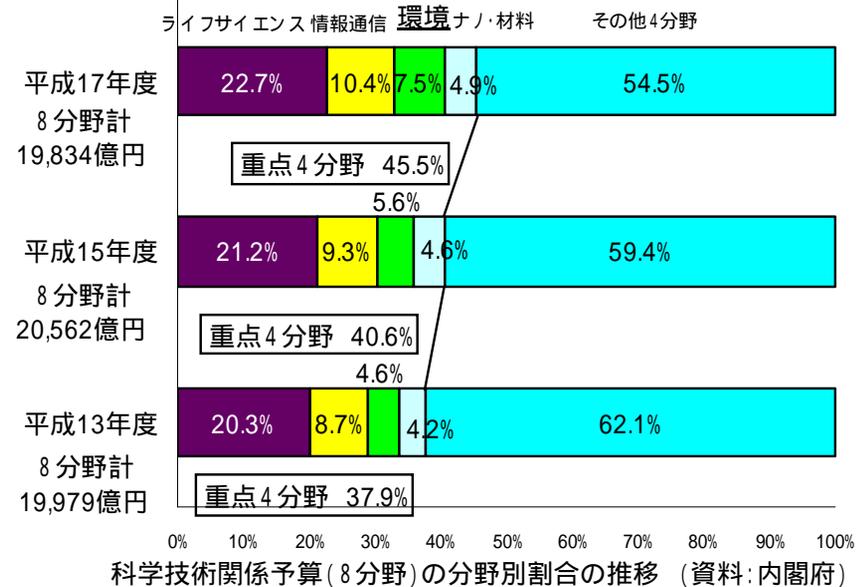
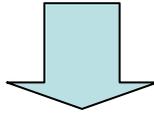
チーム・マイナス6%



環境分野の重要性

第2期科学技術基本計画における「重点4分野」の1つに環境が選定

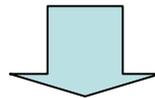
第2期期間中、環境分野における科学技術予算の規模は拡大(13年度比約6割増)



第2期の過去5年間、環境を巡る情勢は次のように変化

- 地球温暖化をはじめグローバル化、複雑化が進展
- 環境と経済の好循環の重要性が増大
- 化学物質等「安全・安心」に係る環境問題が増大

科学技術の果たすべき役割が益々増加



今後も環境分野の研究開発は引き続き重要

環境研究・技術開発の基本的な推進戦略

【重視すべき事項】

➤ 政策的課題に対応した重点領域

- ・脱温暖化社会構築領域
- ・循環型社会構築領域
- ・自然共生型社会構築領域
- ・安全・安心で質の高い社会構築領域
(環境リスクの評価・管理等)

➤ 成果の一層の社会還元 ←

環境技術の普及促進
アジア地域等を中心とする国際的取組の強化

➤ 総合的・統合的アプローチ ←

研究分野間の相互影響
予測的・予防的研究の推進
人文・社会科学研究 / 政策研究の推進

➤ 環境研究を支える基盤整備 ←

人材の育成・組織の整備
地球観測等モニタリングの推進
重要環境試料の収集・保存・活用

【目指すべき将来像】

➤ 持続可能な社会

- ・脱温暖化社会
- ・循環型社会
- ・自然共生型社会
- ・安全・安心で質の高い社会

➤ 環境と経済の好循環

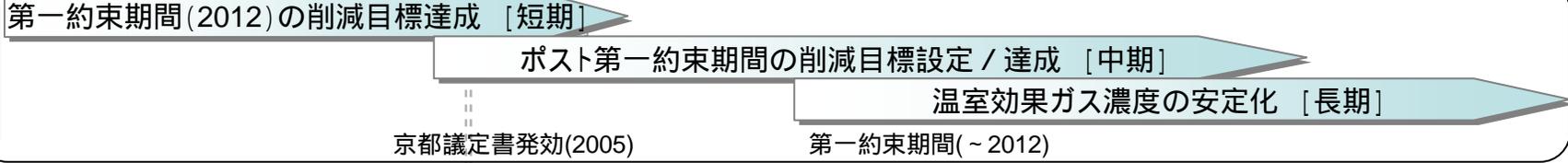
【現状認識】

- 環境問題の解決に資する科学技術に対する国民の期待
- アジアの経済・環境との密接な関わり
- 環境問題の複雑化・多様化
- 対処療法的施策からの脱却(予防・予測的対策への転換)
- 環境研究人材の不足

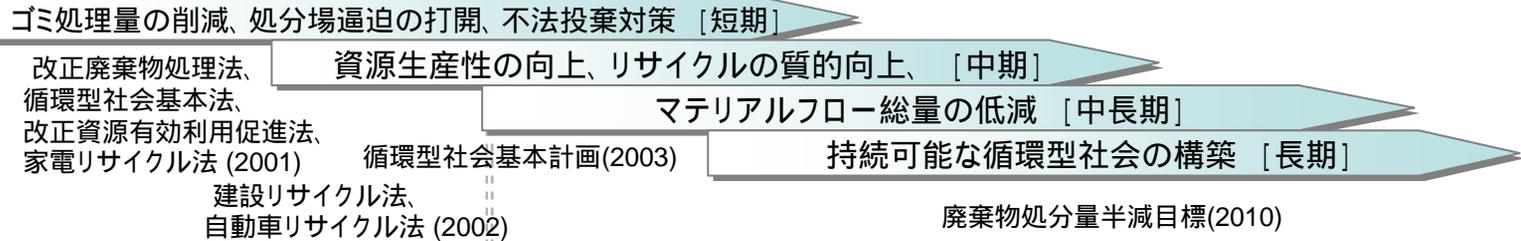
各重点領域の研究開発に係る政策目標ロードマップ



脱地球温暖化



循環型社会



自然共生



安全・安心

